

大斎節第一主日

特禱

四十日四十夜、わたしたちのためにみ子を断食さ

せられた主よ、どうか己に勝つ力を与え、肉の

思いを主のみ霊に従わせ、常にわたしたちがその

導きにこたえ、ますます清くなり、主の栄光を現

すことができますように、父と聖霊とともに一体

であって世々に生き支配しておられるみ子イエ

ス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

《旧約聖書》

創世記

第2章 4b節から9節、15節から17節

25節から第3章7節

4b 主なる神が地と天を造られたとき、5 地上に

はまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主

なる神が地上に雨をお送りにならなかったから

である。また土を耕す人もいなかった。

6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をす

べて潤した。7 主なる神は、土（アダマ）の塵

で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を

吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

8 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自

ら形づくった人をそこに置かれた。9 主なる神

は、見るからに好ましく、食べるに良いものをも

たらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の

中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいで

させられた。

15 主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ま

わせ、人がそこを耕し、守るようにされた。16

主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木

から取って食べなさい。17 ただし、善悪の知識の

木からは、決して食べてはならない。食べると必

ず死んでしまう。」

25 人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしが

りはしなかった。

― 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最

も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神

は言われたのか。」 2 女は蛇に答えた。

「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいので
す。 3 でも、園の中央に生えている木の果実だ

けは、食べてはいけない、触れてもいけない、死
んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。 5
それを食べると、目が開け、神のように善悪を知
るものとなることを神はご存じなのだ。」

6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、
目を引き付け、賢くなるように唆していた。女
は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、
彼も食べた。 7 二人の目は開け、自分たちが裸
であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり
合わせ、腰を覆うものとした。

《使徒書》

ローマの信徒への手紙

第5章 12節から19節 (20節から21節)

12 このようなわけで、一人の人によって罪が世
に入り、罪によって死が入り込んだように、死は
すべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯
したからです。 13 律法が与えられる前にも罪は
世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認めら
れないわけです。 14 しかし、アダムからモーセ
までの間にも、アダムの違犯と同じような罪を
犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。
実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だ
ったのです。

15 しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりませ
ん。一人の罪によって多くの人が死ぬことになっ
たとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人のイエ
ス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊か
に注がれるのです。 16 この賜物は、罪を犯した
一人によってもたらされたようなものではありません。
裁きの場合、一つの罪でも有罪の判決が

くだ
下されますが、恵みめぐみが働くはたらくときには、いかに多おほ

くつみの罪があっても、無罪むざいの判決はんけつが下されるからで

す。17 一人ひとりの罪つみによって、その一人ひとりを通して死し

が支配しはいするようになったとすれば、なおさら、神かみ

の恵みめぐみと義ぎの賜物たまものとを豊ゆたかに受けてうける人は、

一人ひとりのイエス・キリストを通して生き、支配しはいする

ようになるのです。18 そこで、一人ひとりの罪つみによっ

てすべての人ひとに有罪ゆうざいの判決はんけつが下されたように、

一人ひとりの正しい行為こういによって、すべての人ひとが義ぎとさ

れて命いのちを得ることになったのです。19 一人ひとりの人

の不従順ふじゆうじゆんによって多くの人おほが罪人つみひととされたよう

に、一人ひとりの従順じゆうじゆんによって多くの人おほが正しい者ものと

されるのです。

20 律法りつぽうが入り込んで来たのは、罪つみが増まし加わる

ためでありました。しかし、罪つみが増ましたところに

は、恵みめぐみはなおいっそう満ちあふれました。21

こうして、罪つみが死しによって支配しはいしていたように、

恵みめぐみも義ぎによって支配しはいしつつ、わたしたちの主しゅイ

エス・キリストを通して永遠えいえんの命いのちに導みちびくので

す。

《福音書》

マタイによる福音書

第4章 1節から11節

1 さて、イエスは悪魔あくまから誘惑ゆうわくを受けるため、”霊れい“

に導みちびかれて荒れ野あ の いに行かれた。2 そして

四十日間よんじゅうにちかん、昼も夜も断食ひる よる だんじきした後のち、空腹くうぶくを覚えられ

た。3 すると、誘惑ゆうわくする者ものが来て、イエスに言いっ

た。「神かみの子こなら、これらの石いしがパンになるように

命めいじたらどうだ。」4 イエスはお答えこたになった。

「『人ひとはパンだけで生きるものではない。

神かみの口くちから出る一つ一つの言葉ことばで生きる』と書か

いてある。」5 次に、悪魔あくまはイエスを聖なる都みやこに

連れて行き、神殿しんでんの屋根やねの端はしに立たせて、6 言いっ

た。「神かみの子こなら、飛び降りたらどうだ。

『神かみがあなたのために天使てんしたちに命めいじると、あな

たの足あしが石いしに打ち当あたることのないように、天使てんし

たちは手てであなたを支さえる』と書いてある。」7

イエスは、「『あなたの神かみである主しゅを試ためしてはなら

ない』とも書いてある』と言いわれた。8 更に、悪魔あくま

はイエスを非常に高い山ひじょう たか やまに連れて行き、世よのすべ

ての国々とその繁栄^{はんえい}ぶりを見せて、9 「もし、ひ
れ伏^ふしてわたしを拝^{おが}むなら、これをみんな与^{あた}えよ
う」と言^いった。10 すると、イエスは言^いわれた。「退^{しりぞ}
け、サタン。『あなたの神^{かみ}である主^{しゅ}を拝^{おが}み、

ただ主^{しゅ}に仕^{つか}えよ』と書^かいてある。」11 そこで、
悪魔^{あくま}は離^{はな}れ去^さった。すると、天使^{てんし}たちが来^きてイエ
スに仕^{つか}えた。

2023
年
2
月
26
日

信徒
作成

詩編 第51編 1節-12節 祈禱書 742頁

皆様は太字の節を唱えてください。Ⅱの後の言葉は、一呼吸おいてからよみましょう。

1. 神よ、慈しみによってわたしを顧み Ⅱ 豊かな憐れみによって、わたしのとがを赦してください
2. 悪に染まったわたしを洗い Ⅱ 罪深いわたしを清めてください
3. わたしは自分の過ちを認めています Ⅱ 罪はいつもわたしの目の前にあります
4. わたしはあなたに罪を犯し、あなたの前で悪を行いました Ⅱ あなたがわたしを審かれるとき、その審きはいつも正しい
5. わたしは生まれた日から悪に沈み Ⅱ 母の胎に宿った時から罪に汚れていた
6. あなたは真心を、わたしのうちに望み Ⅱ わたしの心の深みに知恵を授けられる
7. ヒソプで水を振り注ぎ、わたしの罪を取り去って Ⅱ 雪より白くなるように、わたしを洗い清めてください
8. わたしに喜びと楽しみの声を聞かせ Ⅱ 打ち砕かれたわたしを、また喜びで満たしてください
9. わたしの罪を見つめず Ⅱ 犯した悪をすべてぬぐい去ってください
10. 神よ、わたしのうちに清い心を造り Ⅱ わたしのうちに正しい霊を新たにしてください
11. あなたのもとからわたしを退けず Ⅱ あなたの聖なる霊を取り去らないでください
12. 救いの喜びをわたしに返し Ⅱ 喜び仕える霊でわたしを支えてください